

父母連ニュース

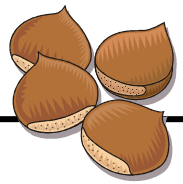
草加市保育園父母会連合会 機関紙

2009年度 第4号/2009年9月12日発行

発行責任者: 高山 943-2616 ・ 浜園 925-4377

表面: 父母連アンケート集計結果報告・育成保護者会お知らせ

裏面: 「全国保育合研」参加報告・おわび 7/11 発行父母連ニュースでの記事について



父母連アンケートへのご協力ありがとうございました

(アンケート回収率は68%…1680世帯中1126世帯からご回答をいただきました!)

今年度も皆様のご協力で、アンケート結果を無事集計することができ、草加市の保育園を取り巻く状況を把握することができました。別紙にアンケートの集計結果一覧表とグラフをまとめましたので、ぜひご覧ください。なお今年度の集計に際しましても、各ご家庭におけるアンケート用紙の記入、各園の集計担当者のみなさんによるコンピュータ入力作業にご協力いただきました。おかげさまで正確で効率的なアンケート集計ができました。

さて今年度のアンケート結果ですが、「保育料・施設・保育内容・クラス人数・公立園以外の利用状況・完全給食の実施」などについての回答結果は、ほぼ昨年度と同じ傾向となっています。しかし、「0歳児保育の全園実施・保育職員の増員・保育園の新設」を希望する声が昨年度より高まっている結果となっているのが、今年度の特徴といえます。2010年度より実施される“草加市の公立保育園における0歳児保育廃止”への不安、経済危機の影響で待機児が増加している現状を反映した結果と解釈できるのではないのでしょうか。父母連事務局としては、今回のアンケート結果を以下のように読み取りました。

- (1) 0・1・2歳児の家庭では7割以上が、3・4・5歳児の家庭では4～5割の家庭が「保育料が高い」と感じている。
- (2) 保育内容や給食には8割以上が「満足」「まあ満足」、クラスの人数は約7割が「適正」と感じているが、施設・設備については「満足」「まあ満足」を合計しても5割の回答である。
- (3) 緊急待機児対策としての定員弾力化についての回答は「良い25%」「仕方ない43%」「やめてほしい29%」である。現状に鑑み7割弱が理解を示しているが、安全面や今後の定員弾力の常態化等を心配する意見が多数寄せられている。
- (4) 7割が時間外・延長保育を利用している。全世帯の1.5割が二重保育を余儀なくされており、その内訳は3割がファミリーサポート事業の利用、6割が知人・祖父母に預けている現状がある。
- (5) 完全給食を望む声は依然多く、「主食代を負担しても実施希望」の割合は、約7割弱となっている。
- (6) 実現を望む項目の第一位は例年同様「保育料の引き下げ」であるが、第二位が「完全給食」「病児保育」と横並びの結果となっている。
- (7) 昨年度に比べて、「0歳児保育の全園実施・保育職員の増員・保育園の新設」の実現を望む割合が、6～10%増えている。

これらの結果を受けて、今後の父母連の取り組みや要望書の策定に反映させていきたいと考えています。みなさんにご協力いただきました「自由意見」の取りまとめにつきましては現在作業中です。こちら集計が終了次第、代表者会を通じて各園に配布させていただきますので、今しばらくお待ちください。

育成保護者交流会を行います!

☆障がいがあるお子さんを保育園に預けている保護者同士の情報交換の場です。

日時: 2009年9月26日(土)
13:00~15:00

場所: 草加市文化会館
第2会議室

- ※ ぜひご参加お待ちしております。
- ※ 保育もあります。

仕事と子育ての両立が大変・・・
来年度はどうなるのかしら・・・?
就学について情報がほしい!
などなど ざっばらんに、
楽しい子育て話し・・・不安・・・
疑問・・・悩み・・・相談
何でもOK!! まずは交流からはじめましょう♪♪



「全国保育団体合同研究会(保育合研)」参加報告

2009年7月25日(土)～27日(月)にかけて行われた「全国保育団体合同研究会(保育合研)」に参加してきました。今年の開催地は大阪、当日はとて暑い日でした。加えて会場となった関西大学は丘の上であり、坂道を登る登る！結構きつかったですけど、内容はとても有意義でした。

午前中は「保育制度」の基本を学ぶということで、講師の坂井直紀先生(全国保育団体連絡会/保育研究所)や村山祐一先生(帝京大学教職大学院教授)から、また午後はシンポジウムとして「保育制度はどうあるべきか」をパネリストの皆さんが意見を出し合いました。その中では主に現在の保育制度と新制度の違いと新制度となると危惧されることがわかりやすく説明され、現在の保育制度を充実させることがいかに大切か、また新制度がいかに危うい制度かがわかりました。ポイントは以下の通りです。

現行保育制度と新制度案の大きな違い

- ・利用者が保育認定を受ける(要保育度1～3:20h・40h・55h)
- ・保護者が自分で保育所を探し、契約できてはじめて保育を受けられる
- ・受ける保育の量に応じて、かかるコストを負担させる制度(応益負担・定率負担)
- ・給食費(材料費+調理の人件費)は自己負担へ ホテルコストは自己負担の考え方定着

新制度で危惧されること

- ・保育認定を受けても入れない?→探すのも自己責任、入所できないのも自己責任。逆選別も?
- ・「直接入所なら「頑張った人」が入れていい!」は本当?→情報力、交渉力、コネ、財力がものをいう?
- ・認定区分ごとの保障(利用)上限設定で利用制限→不規則・短い勤務では要保育認定外?
- ・急な勤務の変動に対応できるのか?
- ・先生とゆっくり相談もできない→相談も保育時間?
- ・認定ごとにバラバラの利用時間+利用料に応じた保育料負担→登園・降園時間バラバラで行事は無理? 等々

今後、父母連としても新制度の学習会を設定していく予定です。その際はぜひご参加ください。

☆ おわび 7月11日発行父母連ニュースでの記事について ☆

「草加のおとなり 足立区の保育園での給食は？」

前回の父母連ニュースで栄養士さんのお話について載せましたが、その記事の中で触れた「足立区の給食」について、足立区役所保育課に問い合わせたお話をうかがいました。

足立区立の保育園では、51園中46園が民間委託による自園調理の給食です。献立は園ごとではなく、区の栄養士が一括で立てており、食材も区でまとめて発注しているということでした。その食材は、区内の契約店から国産の物を仕入れており、アレルギー食などの対応も行っているそうです。行政によるしっかりとした監修のもと、自園方式で安全で安心な給食を作る取り組みが行われていることがよくわかりました。

その一方で、保育園自体を民間委託にした園(足立区では保育園の民営化をすすめています)については、特に区からの指導も行っていないため、保育園に全てを任せているとのことでした。給食を自園で作っている園もあれば、外部に委託している園もあるとのこと。良心的な保育園は数多くあるとは思いますが、園によって差が生まれてしまうことはないのかな・・・と、少し気になるお話でした。

「食育」という言葉が注目を浴びている今、草加市立保育園での給食の取り組みに改めて感謝し、これからも守っていきたく感じました。

前回の父母連ニュースに、足立区立の保育園の給食に誤解を招くような表記での記事を掲載したことを心よりお詫びし、ここに訂正いたします。

父母連事務局 中島

